

# 母子相互作用に伴う 母親の母性・女性性獲得の過程

## 2. 妊婦の母性意識の変容過程に関する報告

分担研究者 利 島 保 (広島大学心理学科)  
研究協力者 武 内 珠 美 (広島大学大学院)  
同 上 吉 田 寿 夫 (広島大学大学院)

妊娠、出産、育児は、女性が自己の心理的成長の契機をもたらす危機的事象であり、妊娠から育児に至る経過で、母親として適応するための意識が形成されると言われている (Caplan, 1957; Bibring, 1959; Benedek, 1959)。本研究は、妊娠から育児に至る女性の心理的变化過程が、彼女の母性意識形成に影響を及ぼすとともに、その後の母子相互作用のあり方に影響を与えることを作業仮説として、妊婦と彼女が体験する種々の環境的事象との相互作用の時間的変化を、母性意識の発達過程として記述することを目的に計画されたものである。

本研究を通して明らかにされる点は、母親となる女性が、種々の相互作用の側面のうち、どの側面から環境移行を展開し、心理的過程の再構成をするのかを、妊娠期の初期、中期、後期の時間的変化の中でとらえ、さらに、妊婦の自己形成の発達段階ないしは、心理的危機のエビジェネティックモデルを示すことである。

### 方 法

対象者：昭和56年2月末までに「お母さんになられる方への調査」の協力依頼のできた、広島市及び東広島市在住の138名の妊婦のうち、回答返してきた者77名について、妊娠期間中同じ調査をさらに2回行ない、分析にかけた対象者の内容は、Table 1の通りであった。

調査用紙：「お母さんになられる方への調査」のうち、妊婦の環境移行調査セクションは、妊娠期の女性と関係する環境事象を、Wapner(1976)の分類に沿って、物理的環境(6 items)、対人的環境(7 items)、社会・文化的環境(7 items)の3側面の各環境事象に対し、5つの

心理的尺度(V1 気になる—気にならない; V2 大切である—大切でない; V3 注意がむく—注意がむかない; V4 好ましい—好ましくない; V5 快い—不快な)の全てについて7ポイント尺度で反応させた。

### 結 果

#### I) 環境移行に対する心理的過程の構造の分析

環境移行調査にあげられた総計20項目の環境事象について、5つの下位尺度の評定値に基づく因子分析を行ない、2因子まで求め、第1因子を認知因子、第2因子を情動因子と名づけ、V1とV2の評定値の和を2で割った値を認知因子尺度値(Co)、V4とV5の評定値の和を2で割った値を情動因子尺度値(Em)とした。

#### II) 妊婦と相互作用する環境事象の構造特性の分析

5つの心理的尺度の各評定点を各Vpごとに加算し平均した値に基づいて算出された20×20(環境事象項目数)の相関マトリックス(N=143)を因子分析し、4因子まで抽出した結果をTable 2に示した。この結果、社会・文化的因子(Sc)、対人関係因子(Ip)、自己環境因子(Ph)、誕生する子どもの環境因子(Ch)の4因子が抽出された。

#### III) 環境移行に伴う心理的変化過程の分析

##### 1) 環境移行時期及び妊娠経験が心理的過程に及ぼす効果

妊婦が調査を受けた妊娠期間中の3つの時期、初産か経産かの妊娠経験、4つの相互作用環境因子を独立変数とする3要因分散分析を、5つの心理的尺度及び、認知因子、情動因子について行なった。

## 2) 妊婦の心理的構造の質的変容過程

20の環境事象項目に対する妊婦の心理的構造が、因子分析で抽出された構造とは質的に異なるまとまりをもっているかどうか、また、そのまとまり方が環境移行に伴なって変化する過程であるかどうかを検討するために、各Vpごとに、全ての対象間の組み合わせについての心理的尺度間の距離を求め、5尺度の合計を個人の心理的距離値とし、これから最終的に19×19の距離マトリックスを作成し、MDS(Kruskal法)により、各項目の2次元空間布置を求めた。Fig. 1, 2, 3は、3つの妊娠期における、項目の2次元空間布置を示したものである。

## 3) 環境移行に伴なう心理的統合過程の分析

I)の因子分析で抽出された認知因子及び情動因子の尺度値C<sub>o</sub>とE<sub>m</sub>の関連度を、環境移行に伴なう心理的反応の統合度を示す測度と考え、1人のVpの20項目の評定点に基づいて、Pearsonの積率相関係数 $r_{xy}$ を個人ごとに求め、さらに、それを2変換して心理的統合度得点(OS)とした。すなわち、OSの値が高ければ心理的統合度が高く、逆に低ければ、未分化な心理状態にあると考えた。このOSについて、妊娠時期(3)×妊娠経験(2)の2要因分散分析を行なった結果、妊娠時期の主効果のみが有意であった( $F(2,124) = 10.00, P < .001$ )。

## 考 察

本研究は、妊婦の外的環境との相互作用を通して時間的に変容をたどる、内的過程を明らかにしようとしている。分析Iの結果から、本研究で用いた心理的尺度は、認知的因子と情動的因子の2つによって、環境移行に際しての妊婦の心理的過程を説明できることが示唆された。さらに、分析IIIの3)の結果において、これら2つの因子の関連度に基づく、心理的過程の統合度の時間的変化過程は、出産が近づくほど認知と情動が同一方向に変化する程度が高く、心理的統合がなされると考えられる。

妊婦の環境移行に伴なう、彼女と環境との4つの相互作用の側面に関する妊婦の心理的変化過程について行なった分析結果についてみると、各側面ごとの心理的反応の量的変化について分析IIIの

1)の結果は、妊婦と環境の相互作用に伴なう心理的反応の変化が、妊娠期間が経過するほど適応的になってくること、初産婦の方が経産婦より適応的になることが示唆されている。さらに、相互作用の側面についてみると、自己環境について特に受容的傾向が時間的経過を追って明確になっており、この傾向も初産婦においてははっきり認められた。

分析IIIの2)の、妊婦の心理的構造を質的に分析した結果から、Fig. 1~3の2次元空間のX、Y軸の意味を解釈すると、X軸は、相互作用のpositivenessの軸、Y軸は、相互作用のあり方を内的に受容するか、外的なものとして受容するかの、相互作用の受容性の軸と意味づけできる。また、これらの布値は、出産が近づくにつれて、2つの軸の中心に向かって凝集する形で構造化されることがわかる。特に、つわりと胎動の布置の移動は、2つの軸の意味を端的に示すもので、つわりは、妊娠初期には、内的受容で負のPositivenessを示しているが、最終的には、外的な受容方向に移動する。胎動の場合は正のPositivenessで、外的受容から内的受容に変化している。さらに、クラスター分析では、初期にまとまりが強いのは、夫と自分の母親、医師と母子手帳の結びつきであるのに対し、中、後期では、胎動と母子手帳、夫と生まれる子の結びつきであることは、母性意識が変容し、次の段階への適応のレディネスが作られることを示唆している。

以上の点から、妊娠という女性の環境移行的契機を通して、女性の自己意識ないしは母性意識の成長にかかわる危機をモデル化してみると、Table 3のようになる。

## REFERENCES

- Benedek, T. 1959 Parenthood as a developmental phase: A contribution to the libido theory. *Journal of American Psychoanalysis association* 7, 389-417.
- Bibring, G.L. 1959 Some considerations of the psychological processes in pregnancy. *Psychoa-*

nalitic Study of Child, 14, 113-121.

Caplan, G. 1957 Psychological aspects of maternity care. American Journal of Public Health, 47, 25-31.

Wapner, S. 1976 Environmental transition. 4th Annual Lucy Sprange Mitchel Motrial Conference. Oct. 30, Reading Paper.

Table 1 The number of subjects in each stage of pregnancy.

Collected data of investigated stage	First preg. subjects	Experienced subjects
Early stage(1) only	6	3
Middle stage(2)only	9	15
Late stage(3) only	1	1
1 + 2 stages	4	3
2 + 3 stages	4	10
1 + 2 + 3 stages	10	12
Total	34	44 (77)

Table 2 Factor loadings after varimax rotation for 20 environmental items.

Environmental Items	F-I	F-II	F-III	F-IV
K 初 節 句	. 886	. 208	- . 023	. 068
J お 食 い ぞ め	. 851	. 200	. 075	. 077
H 宮 ま い り	. 791	. 190	. 191	. 110
L 安 産 の お 守 り	. 535	. 212	. 264	. 101
G 岩 田 帯 ( 腹 帯 )	. 445	. 244	. 322	- . 189
M 母 子 手 帳	. 343	. 313	. 454	. 076
I 里 帰 り ( 出 産 )	. 307	. 043	. 421	. 049
Q 友 人	. 191	. 753	- . 065	. 199
N 夫	. 100	. 629	. 271	. 012
R 近 所 の 人	. 229	. 628	- . 032	. 225
O 実 家 の 母	. 118	. 583	. 189	- . 002
T 夫 の 母	. 188	. 568	. 138	. 008
S 医 師	. 162	. 453	. 355	. 047
P う ま れ る 子	. 112	. 302	. 544	- . 054
F 胎 動	. 107	. 177	. 540	. 254
C 自 分 の 体 型 の 変 化	. 001	. 008	. 523	. 059
E ベ ビ ー 服	. 260	. 048	. 358	. 710
D は 乳 び ん	. 232	. 151	. 189	. 607
A つ わ り	. 059	- . 017	. 050	- . 241
B 他 の 人 の 子 ども	. 275	. 153	. 174	. 233
	16. 175	13. 630	9. 660	6. 225

Table 3 Epigenetic Model of Maternal Consciousness during Pregnancy

Period	Developmental Crisis
初期	自己の身体的変化の認知と、それに対する情動的反応のアンバランスの葛藤解決
中期	母親としての役割のイメージ形成と、肯定的情動性を伴ったモラトリアム期
後期	自己の男実性獲得と適切な対象関係の獲得との葛藤(胎児でなく、赤ん坊として受け入れ)

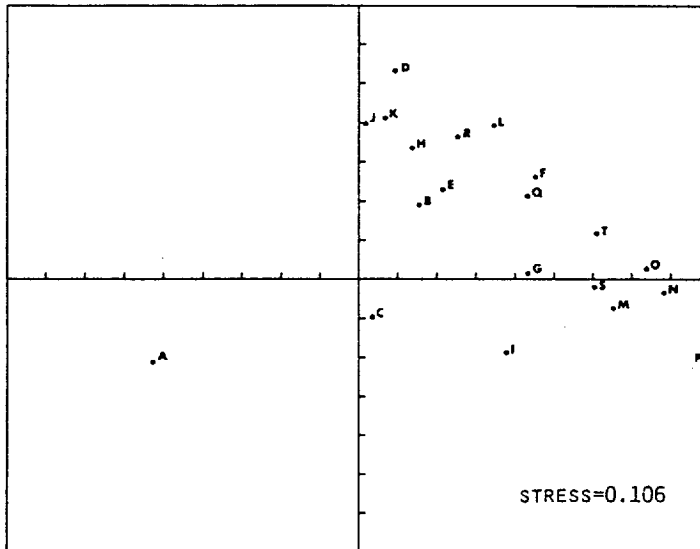


Fig. 1 The distribution of psychological distance between 20 environmental items on two dimensional coordinate induced by means of M D SCAL. (Early Stage of Pregnancy)

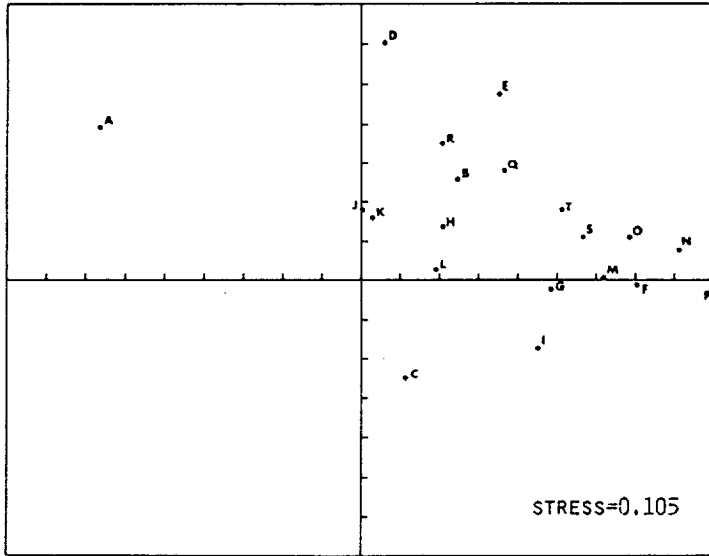


Fig. 2 The distribution of psychological distance between 20 environmental items on two dimensional coordinate induced by means of M D SCAL. (Middle Stage of Pregnancy)

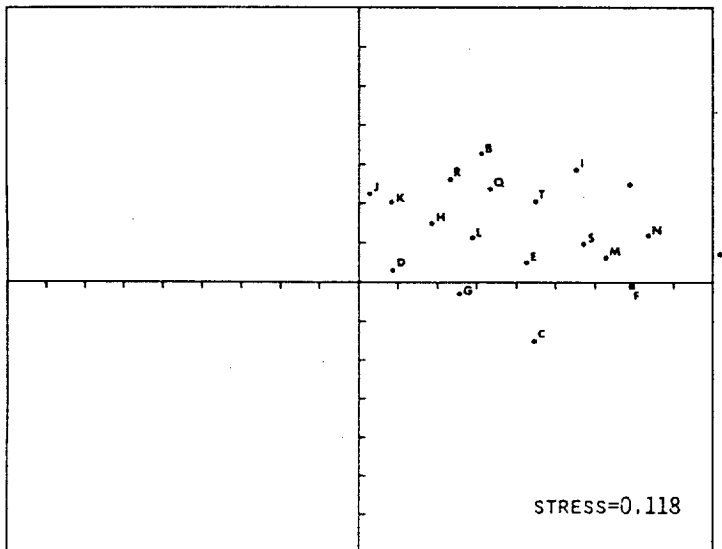
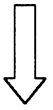


Fig. 3 The distribution of psychological distance between 20 environmental items on two dimensional coordinate induced by means of M D SCAL. (Late Stage of Pregnancy)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



妊娠, 出産, 育児は, 女性が自己の心理的成長の契機をもたらす危機的事象であり, 妊娠から育児に至る経過で, 母親として適応するための意識が形成されると言われている (Caplan, 1957; Bibring, 1959; Benedek, 1959)。本研究は, 妊娠から育児に至る女性の心理的变化過程が, 彼女の母性意識形成に影響を及ぼすと. ともに, その後の母子相互作用のあり方に影響を与えることを作業仮説として, 妊娠婦と彼女が体験する種々の環境的事象との相互作用の時間的变化を, 母性意識の発達過程として記述することを目的に計画されたものである。本研究を通して明らかにされる点は, 母親となる女性が, 種々の相互作用の側面のうち, どの側面から環境移行を展開し, 心理的過程の再構成をするのかを, 妊娠期の初期, 中期, 後期の時間的变化の中でとらえ, さらに, 妊婦の自己形成の発達段階ないしは, 心理的危機のエピジェネティックモデルを示すことである。